

アジアゾウ「はな子」

東京へ行ったとき、中央線「三鷹」まで足を伸ばし、「吉祥寺」のほうに向かった。「風の散歩道」という、玉川上水沿いの道を真っすぐ歩いた。まち歩きに快適な散歩道だ。玉川上水というと、太宰治の「入水自殺」を思い起こす。

途中に本格的な洋風建築の建物があり立ち寄った。「三鷹市山本有三記念館」である。大正末期に建てられたモダンな洋館だ。有三の作品などが展示されている。代表作「路傍の石」や戯曲「米百俵」などをここで執筆したという。「路傍の石」は遠き昔に読んだ記憶がある。



記念館からすこし歩くと、「東京都井の頭自然文化園」に着いた。今回のまち歩きの「お目当て」は、ここの動物園の「はな子」だ。これには少し「わけ」がある。NHKの番組に「ドキュメント 72 時間」というのがある。あるスポットの人びとの「いま」を3日間にわたり追うドキュメントだ。2月末に「真冬の東京 その名は”はな子”」が放映され、アジアゾウの「はな子」に興味をもった。



「はな子」は戦後まもなくタイからやってきて、今69歳という。私の年齢に近い。人間だと何歳くらいだろうか。番組では、毎日のように動物園に通い、「はな子」に話しかける人を紹介していた。

動物園に行ったときは雨が降っており、「はな子」は園舎にいた。体調は芳しくないようだが、訪れた人の近くに来て、じっと見つめていた。その目がなんとも言えない。タイヤを長い鼻で持ち上げたりしていた。「常連さん」らしき女性が、「はな子」に元気かい、などと話しかけていた。「はな子」はその励ましの声に応えているかのようであった。



ひと目「はな子」に会えて、なんだか心休まる気持ちになった。若者らで賑わう吉祥寺に出て、それから渋谷に向かった。

(2016年4月5日)